

クラウドクレジット・ファンディング合同会社

2022年10月28日

【ロシアルーブル建て】欧州フィンテック事業者支援ファンド（14号～18号、21～44号）

【米ドル建て】欧州フィンテック事業者支援ファンド（5号～8号、12号～34号）

【円建て】欧州フィンテック事業者支援ファンド（1号～36号）

の運用状況につきまして

（2022年10月期）

投資家のみなさまにおかれましては、平素より格別のお引立てを賜り誠にありがとうございます。

掲題のファンドシリーズ各号（以下、「本ファンドシリーズ」といいます。）につきまして、運用状況をご報告申し上げます。

【本レポートの要旨】

<本ファンドシリーズの現状>

ロシア軍のウクライナ侵攻開始から約8か月が経過した現時点でも、特にロシア政府およびロシア中央銀行による送金規制の影響で、返済開始時期の見通しが立っていません。

<Kviku社グループの状況>

本ファンドシリーズの貸付先であるKviku社グループ（後述）は、送金経路を確保でき次第、当社エストニアグループ会社（後述）に返済できる手元流動性を維持しています。ただし、ロシア・ウクライナ間の戦争の先行きが依然不透明ななか、今後の戦局や対ロシア経済措置の内容次第では、Kviku社グループを取巻く事業環境が悪化して返済能力が低下する可能性があります。

<送金ルート確保について>

本営業者はロシアの弁護士事務所と連携して代替送金方法を検討しています。現時点では、ロシアからの海外送金についてロシア中央銀行の特例的な承認を得る方法を第一選択肢として検討しています。

1. 出資対象事業の概況

ご投資いただいた出資金の用途

- (i) 本ファンドにおいてクラウドクレジット・ファンディング合同会社（以下「本営業者」といいます。）は、お客様にご投資いただいた出資金をクラウドクレジット株式会社のエストニア子会社（Crowdcredit Estonia OÜ。以下「エストニアグループ会社」といいます。）に対して貸付けを行いました。
- (ii) エストニアグループ会社はこの借入金を原資として、キプロス共和国に籍を置く Kviku 社グループの金融事業者である Kviku Holdings Ltd.（以下「Kviku 社」といいます。）へ貸付けを行いました。
- (iii) Kviku 社への貸付けに対しては、Kviku 社グループの中核企業であり、ロシアに籍を置く金融事業者である LLMC AirLoans（以下「AirLoans 社」といいます。）が債務保証を行っています。

2. Kviku 社グループの現状

(1) 事業活動地域

Kviku 社グループは、ロシア、カザフスタンの他、ヨーロッパおよび東南アジアで個人向けの短期ローンを取り扱う金融事業者グループで、グループ収益の大半をロシア事業が占めます。

(2) Kviku 社グループの事業運営状況

グループ収益の大半を占める AirLoans 社は、ロシア軍のウクライナ侵攻開始から約 8 か月が経過した現時点では、当初想定したほどロシアのマクロ経済環境の悪化が深刻でなかったこともあり、従来通り個人向けの貸付事業を継続しています。ウクライナ侵攻以前と比較して財務内容の悪化や不良債権の増加が顕著ではなく、保守的な運営方針のもと、送金経路を確保でき次第、エストニアグループ会社に返済できる程度の手元流動性を維持しています。

なお、Kviku 社自体はキプロスに籍を置くグループの持株会社兼資金調達ビークルであり、また、Kviku 社グループの他の海外法人は事業規模が小さいため、いずれも原則、十分な余剰資金を持ちません。そのため従前よりそれら法人の資金をあてにせず、グループの中核企業である AirLoans 社の資金を原資として、回収を検討しています。

(3) Kviku 社グループの為替リスクの状況

Kviku 社グループは本ファンドシリーズをはじめ一定の外貨建て債務を抱える一方、収益の大半をロシアルーブル建てで計上しています。現時点ではロシアルーブルの対ユーロ、対円などのレートがロシアによるウクライナ侵攻直前よりも高い水準にありますが、今後ロシアルーブルが下落に転じる場合には外貨建て債務の実質的な返済負担が増して債務返済能力が低下する可能性があります。

3. 送金規制の影響および代替手段について

(1) ロシア国内の送金規制の状況

ロシアからの海外送金は広範に規制されています。特に、ロシアの非友好国に向けての送金は厳しく規制されています。ただし、本項(2)に後述のとおり、ロシアに籍を置く法人が所定の条件を満たす場合には、送金先が非友好国であっても、月額 1,000 万ロシアルーブル(日本円で 2,000 万円相当額※)を超える海外送金が特例的に認められる可能性があるため、本営業者はその方法を検討しています。

※ロシアによるウクライナ侵攻後、ロシアルーブルの相場は大きく変動しており、1ロシアルーブル=2.00円で仮置きしたレートを元に計算しています。

(2) 送金ルートの確保について

本営業者はロシア現地の弁護士事務所を起用して送金ルートを検討しています。これまでのところ、弁護士事務所から、所定の条件を満たせば月額1,000万ロシアルーブルを超える海外送金の特例的に認められる可能性があるとの見解を得ました。ただし、ロシア政府が非友好国に指定する国への送金では政府の事前承認が必要となり、提出書類のほか承認プロセス自体が煩雑なこともわかりました。

本営業者はその弁護士見解を踏まえて、Kviku社グループロシア法人のAirLoans社が持つ資金を同キプロス法人のKviku社を介してエストニアグループ会社に返済する従来通りの送金経路を使用し、ロシア中央銀行から特例的な承認を得る方法を第一選択肢として、Kviku社グループや弁護士事務所と連携して、回収を図っています。

(3) <参考>その他の送金方法検討について

本営業者は、以下の選択肢も同時に検討を進めています。しかしながら、ロシア国外でロシアからの送金を受け取る口座を新たに準備することが困難であること、ロシア政府による送金規制の抜け道と捉えられうる手段を利用するとAirLoans社が金融事業者の許認可を取り消される懸念があることなどから、現時点では上記(2)のルートを第一の選択肢としています。

※その他の送金方法の例

- ・AirLoans社が非友好国に該当しない国でオフショア口座を開設して送金する方法
- ・Kviku社グループの他の海外法人を経由して送金する方法
- ・銀行以外の送金業者の決済サービスや暗号資産を通じて送金する方法

4. 今後の返済見通し

ロシア軍のウクライナ侵攻開始から約8か月が経過した現時点でも、特にロシア政府およびロシア中央銀行による送金規制の影響のために、返済開始時期が不透明なままです。本営業者はロシアの弁護士事務所と連携し、ロシア中央銀行の特例的な承認を受けてロシアから海外送金する方法等での回収を検討していますが、回収時期の見通しが立っていません。

なお、ロシア・ウクライナ間の戦争の先行きが依然不透明であるなか、今後の戦局やロシアに対する経済措置の内容次第では、Kviku社グループを取り巻く事業環境が悪化し、返済能力が低下する可能性もあります。

本営業者は3か月に一回程度を目安に本ファンドシリーズの最新状況をご報告申し上げる予定です。ただし、本営業者の判断で、3か月を待たずにすみやかにご報告する場合がございます。投資家のみなさまにおかれましては、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

会社概要（クラウドクレジット・ファンディング合同会社）

【代表社員】 クラウドクレジット株式会社

【設立年月】 2016年3月

【資本金】 1,000,000円

【住所】 東京都中央区日本橋茅場町一丁目8番1号